

別海町郷土資料館だより

No.297 2024 年 4 月号

ふるさと講座・歴史系第1回目

歴史の道を歩く

江戸時代のハツケ！

～野付通行屋・番屋跡遺跡を訪ねる～

道内でも珍しい江戸時代の遺跡を訪ねます。
また、野付半島の春の息吹も感じられること
と思います。

●日 時 令和6年4月20日（土）

午前9時15分～午後1時

●場 所 野付半島

（集合-野付半島ネイチャーセンター2階）

ネイチャーセンターでお話の後、遺跡に移動し
ます。

●ガイド 別海町郷土資料館 石渡 一人

●定 員 10名

電話・FAX・メールにて氏名・電話番号を4月18日
（木）までにご連絡ください。

●その他 長靴を必ず着用下さい。草分け道や海岸
を5kmほど歩きます。ウォーキングにも最適で
す。

「アイヌ語通辞（通訳）加賀伝蔵物語」
を刊行しました。

この度、「アイヌ語通辞（通訳）加賀伝蔵物語」の絵本を刊行しました。

郷土資料館・加賀家文書館での閲覧、図書館での貸出を行なっておりますので、ぜひ、ご覧くだ
さい。



日本遺産
JAPAN HERITAGE



野付半島、野付通行屋跡遺跡は、「日本遺産
鮭の聖地の物語」の構成文化財です。



遺跡の見どころ！

野付半島は、全長26kmの日本最大の砂嘴（さし）
（海上に長く突き出た形状で砂が堆積して出来た半
島）です。

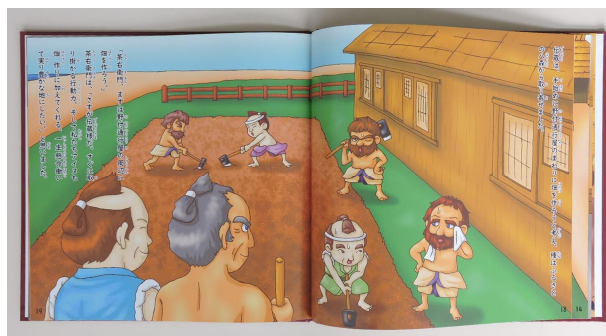
半島の先端には、国後島へ渡るための要所として、
寛政11年(1799)に幕府によって設置された「野付通
行屋」の遺跡が残されています。

この遺跡は、2003～2005年に海岸浸食を受け崩壊
の恐れがあり、遺跡の半分を発掘調査しました。

遺跡の半分は、今でも現存し、当時のお墓、建物の
跡、畑の跡を見ることが出来ます

今回のツアーでは、遺跡にまつわるお話と現地の見
学により、幕末の当地の様子を知っていただきた
と思います。

●1999年頃の野付通行屋跡遺跡（写真）



「メナシのアイヌとともに生きる～加賀伝蔵・松浦武四郎・南摩綱紀～」その 8 加賀伝蔵、アイヌへの種痘に奔走する。

(種痘：伝染性疾患の一種である天然痘の予防接種)

蝦夷地で和人の活動が活発になると、疱瘡などの悪性伝染病で死亡するアイヌが相次ぎました。箱館奉行の要請により、幕府は1857年(安政4)4月、医師桑田立斎・深瀬洋春に東西蝦夷地での種痘を命じました。

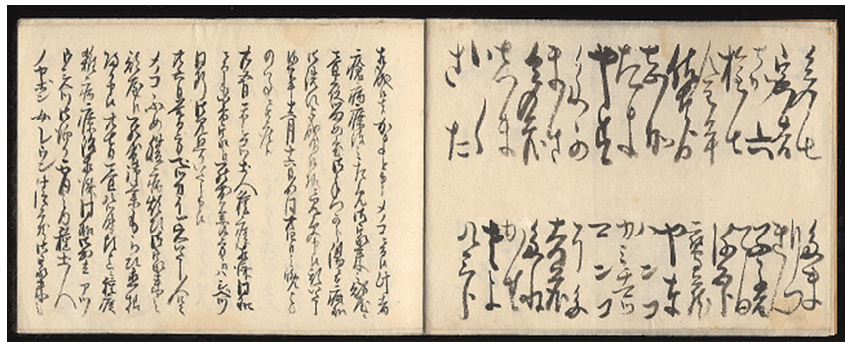
この年、桑田立斎は、東蝦夷地での種痘活動を行いました。アイヌが種痘を嫌ったり、交通の状況が悪く、困難をきわめました。根室場所には、1857年(安政4)7月15日に到着し、根室・国後・野付・茶志骨・別海と渡り、種痘活動を行いました。その後、

門弟の井上元長は、1858年(安政5)から未種痘者への活動を続けました。

伝蔵は、井上元長を補佐してアイヌへ種痘実施の趣旨を伝え、種痘を嫌ったアイヌの説得にあたりました。井上元長のアイヌに対する好意的な姿勢や伝蔵の努力により桑田一門は、根室場所の8割程のアイヌに種痘することができました。



蝦夷人種痘之図(北海道大学附属図書館蔵)



「日記ノツケ伝蔵」井上元長種痘記録 加賀家文書館蔵

郷土資料館をご活用ください！

郷土資料館は、施設の一般公開のほか、出前講座や出前移動展など、みなさまの希望に応じて実施しております。限られたメニューではありますがご活用ください。

詳しいメニューは、<http://betsukai.jp/>から別海町郷土資料館を検索ください。

別海町郷土資料館だより No.297

発行日 令和6年4月1日
発行所 別海町郷土資料館
別海町別海宮舞町 30 番地
電話 0153-75-0802 (FAX 兼)

編集後記 「アイヌ語通辞(通訳)加賀伝蔵物語」が刊行されました。構想から5年程経過しての実現となりました。絵を描いていただいた木幡友哉さんには、感謝しかなく、想像以上の出来上がりとなりました。町内関係機関・道内図書館にも配布しています。多くの方にご覧になっていただきたいと思います。